

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 R. A. 学年（留学当時） 5年

実習期間 2024年3月18日（月）～2024年3月29日（金）

留学先機関名 上海交通大学

1 プログラム内容について

- (1) 参加した留学プログラム
・海外クリニカル・クラークシップ

2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	成田	13:35	現地着	浦東	15:45
	経由地着			経由地発		
復路	現地発	浦東	17:00	日本着	成田	20:45
	経由地着			経由地発		
到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額	移動手段（ 現地在住の知人による送迎 ） 所要時間：（ 40 ）分 金額目安：（ 0 ）円					

3 宿泊先について

滞在期間	2024年3月16日～3月30日		
宿泊タイプ	寮	人部屋 共有設備：（ ）	
	ホテル・アパート	2人部屋	
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生（ ）人	
	Airbnb・シェアハウス	人で共 同	ホストの同居；あり・なし 共有設備：（ ）
実習場所までの距離	（ 徒歩 ）で（ 10 ）分		
宿泊費用	約5万円 /1週間		
住所	55 Huan Long Road, Pudong New Area, Shanghai, 200127		
実習場所までの距離	（ 徒歩 ）で（ 10 ）分		
宿泊費用	約5万円 /1週間		
住所	No 2111 Pudong Nan Road, Shanghai, 200127		

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1週間

項目	金額	内訳
食費	約 15,000 円	夕食代、水などの購入費として（朝食はホテル、平日の昼食は病院で支給）
学用品購入費	0 円	
交通費	約 1,000 円	地下鉄・バス代として
その他	約 2,000 円	e-SIM 代として
合計	約 18,000 円	

(2) 派遣先周辺地域の治安等

治安は良好です。バイクの交通量が多かったり路上喫煙者が多かったりと、雑多な印象は受けますが、防犯の観点からは特に問題ありませんでした。地下鉄、バスがかなり発達しています。近くにショッピングモールがあり、スーパーや飲食店が揃っていて便利です。周辺にはコンビニが多数あります。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）
持参してよかったもの

- ・ポケットティッシュ（トイレにペーパーがないこともあるので必携です。）
- ・日本のお菓子（お土産として持っていきました。会話のきっかけとなり喜ばれました。）
- ・翻訳ツール（翻訳アプリは音声入力できるものが良いです。Google レンズの翻訳機能もかなり使用しました。）

事前に確認すると良いこと

- ・中国で必要なアプリを確認し、日本にいるうちにダウンロードと認証まで済ませておきました。（We chat、Alipay、地図アプリ、翻訳アプリ、VPN など）
- ・中国の Wi-Fi では LINE 等のアプリが使用できないため、e-SIM の購入や、VPN の設定が必要です。ネット環境は十分に準備したほうが良いです。
- ・中国の電話番号を使用できるようにしておくことと本人認証のときに便利です。私は中国の電話番号を持っていなかったため、毎回現地の人を頼って電話番号を借りていました。
- ・中国の電圧は 220V（日本は 100V）なので、対応しているか確認しておくこととよいです。

5 実習について

実習診療科と主な内容（腫瘍内科の observation）	
実習内容	① MDT (multidisciplinary team) カンファランスに参加（約 1 時間半）
	② 病棟回診
	③ 外来見学、手技見学
	④ 症例検討
	⑤ その他、教授外来、研究施設、外勤先の見学など

(1) プログラム初日の行動

初日は担当の先生が外勤だったこともあり、他の先生による施設紹介のみでした。14時に6号棟の学務に集合し、白衣・名札の貸与を受けた後、病棟・カフェテリア等の施設を案内していただきました。解散は15時でした。

(2) 実習詳細

上海交通大学医学院附属仁濟医院のOncologyにて二週間実習をしました。(中国では病院のことを医院と呼びます。)腫瘍内科副主任のDr. Zhangのもとにつきマンツーマンのような形でした。以下、詳細を項目ごとに記載します。

・毎朝のミーティング

毎朝8時より行われます。症例のプレゼンは看護師が行っており、それをもとに医師が議論する形で進行されました。

・MDT (multidisciplinary team) カンファランス

毎週火曜日、朝7時から行われます。朝早いですが、朝食付きです。Oncologyとradiologyの二科合同で、転移の有無を判断したり、手術適応や放射線治療適応を協議したりする場でした。毎週約10症例を扱っていました。Wang教授が中国国内で膀胱がんの第一人者なため膀胱がんの症例が最も多く、他にも胃がん、食道がん、乳がん、肺がんなど多岐にわたっていました。Dr. Zhangや他の先生方が適宜英語に訳して教えてくださいました。

・外来見学

1週目の水曜日は教授外来を見学し、2週目の月曜日・水曜日に一般外来を見学しました。教授外来は一症例15分ほどかけて、5時間で約20症例を診察していました。一般外来は非常にスピーディーに進められており、2週間で合計40症例ほど見学しました。本人以外の家族のみで受診するケースが多いことに驚きました(カルテには「代診」と書かれていました)。私自身の体感ですが、半分ほどの外来患者が代診だったと思います。薬の処方だけなど重要でない診察の場合には、代診が可能だそうです。中国には、家族や友達以外の人にお金を払って、代診を頼むサービスもあるのだと教えていただきました。

・回診見学

毎週火曜日、MDTカンファランスの後に、教授回診がありました。教授回診は3時間ほど行われ、ベッドサイドにて一症例あたり20-30分ほどかけていました。まず若手医師が症例のプレゼンをした後、上級医が論文を引用しながら説明を捕捉し、教授が方針をまとめて締めくくるといった流れでした。近くにいる医師がスマホでカルテを見せてくださったり、英語で解説してくださったりしました。

日々の回診は午後に行われていました。月曜日の午後は肺腫瘍チームの回診に参加し、興味深い症例について解説いただいたり、肺がんのCT読影について教えていただいたりしました。

・症例解説

毎日午後に、Dr. Zhangの時間が空いたタイミングで、症例解説の時間を作ってくださいました。その日の新規入院の患者や、回診症例について説明してくださいました。他臓器への転移のあるstageIVの症例がほとんどでした。珍しい症例として、胸腺がんや膵腺胞細胞癌などに会いました。解説を受けた後、共にベッドサイドに行き、黄疸や皮疹、リンパ節腫脹、ドレーンの性状などの身体所見を確認しました。さらに、当科で症例数の多い膀胱癌と、私の興味に合わせて肺癌について、レジメンのクルズスを行ってくださいました。質問を帰り際に確認してくださるので、日々の実習で気になった疑問点もこの時間に教えていただくことができました。

・手技の見学

金曜日の午前中に生検を見学いたしました。2週間で超音波ガイド下肝生検と、CTガイド下経皮的肺生検を見ることができました。手技中も、適宜英語で説明をしてくださいました。腫瘍内科の医師が生検を行うことにまず驚きました。腫瘍内科の中では一人の医師が生検を担当していて、どの臓器でも対応できるそうです。他には、ストレッチャーの移動を患者家族が行っていたことが印象的でした。

Heat therapy（日本でいう温熱療法のこと）も見学いたしました。

・研究施設の見学

2週目の火曜日午後は、腫瘍内科の病棟と同敷地内にある研究施設に連れて行っていただき、研究内容や実験機器を紹介していただきました。

・上海市浦南医院への同行

2週目の木曜日には、Dr. Zhangの外勤に同行し、上海市浦南医院へ行きました。長期入院が必要な患者さんは、外勤先に紹介して診ているそうです。浦南医院では、腫瘍内科の見学のほか、国際医療部も見学しました。日本人の医師に会わせていただくことができました。

・その他

上記のようなイベントがない時間には、カルテを閲覧する権限をいただけたので、入院サマリー・退院サマリーの作成補助を行ったり、カルテ学習をしたりして過ごしました。治験のコンサルテーションも見学することができました。

自分で患者さんに対して手を動かすことはありませんでしたが、先生方は熱心に指導してくださり充実した2週間でした。希望する実習内容があれば、聞き入れてくれる環境でした。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

時間	8:00-8:30 (火曜日は7:00-8:30)	8:30-12:00	12:00-13:00	13:00-16:00
行動	カンファレンス (火曜日はMDT)	外来見学(月・水) 回診(火) 手技見学(木・金)	昼食	症例解説、クルズス 回診 カルテ業務補助

(4) 休日の過ごし方

休日は三日間ありました。派遣先から地下鉄で1時間半ほどに位置する、水郷の街と知られる朱家角を観光しました。都市部の観光では、高層ビル群の近代的な街並みと、古い中国の庭園の両方を楽しむことができました。

(5) 留意事項等(予習しておくこと、困ったこと、持参するとよいもの等)

予習しておくこと

・その診療科の知識：先生方は日本の医療にとっても興味を持っていらっしゃるのので、派遣される診療科の日本での知識を持っていくと喜ばれます。留学前に日本の実習で腫瘍内科を回っておいて良かったと思いました。

- ・抗癌剤の中国語表記：覚えておくと実習がスムーズかもしれません。カルテでは漢字で表記されていて読めず（例：紫杉醇＝パクリタキセル）、中国語発音なので聞き取れませんでした。
- ・英語力：当たり前なことを書いてしまい恐縮なのですが、スピーキング力を高めれば高めるほど聞きたいことを聞けるようになり、有意義な実習になると思います。

持参すると良いもの

実習には、スマホとメモ帳、筆記用具があれば大丈夫です。同じアジア顔なせいも意外と留学生であることが伝わらないので、市大の名札を付けておくとも身分表示になってよいです。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

中国の医療の実態は日本ではよく知られておらず、想像が付きにくいのではないかと思います。ビザが必要なことや、Google が使えないといったことから、現地に行くまではかなり不安に思っていました。実際に現地に行ってみると、先生方が日本に敬意を持ち、私の実習を喜んで受け入れてくださったので、安心して実習に取り組むことができました。言語の壁も心配でしたが、仁済医院の先生方は親切で熱心な方ばかりで、英語が苦手な方も翻訳アプリを活用するなどして積極的に関わってくださり、充実した学びを得ることができました。カルテが漢字で書かれているので、内容があらかた理解出来ることも大きな助けとなりました。

まず初日から、広大な施設に圧倒されました。患者数も多く、上海以外の中国全土からも悪性腫瘍の患者が当科に集まってきていました。中国では医療ツーリズムが主流で、治療を受けるために北京や上海へ移住する人が多いとのことでした。患者数が多いことから、効率化が非常に重視されているように感じました。例えば、医師自身のスマホでカルテを見ることができたり、外来では次の人が診察室内にもう待機していたり、とにかく業務が速く、驚きました。症例を多く経験しているからか、生検の手技も手慣れていて迅速でした。外来も病棟も大変混雑していましたが、アットホームな雰囲気が保たれていました。医師たちは患者さんの顔をよく覚えていて、廊下で肩をたたきあって挨拶したり、気軽に質問に答えたりしていました。患者さんやそのご家族もMDTカンファランスに参加しており、患者との距離の近さに驚かされました。加えて、腫瘍内科の立ち位置が日本と大きく異なると感じました。腫瘍性疾患は、外科適応がなければ基本的に腫瘍内科が診るそうです。緩和医療の雰囲気は全くなく、アクティブに化学療法を選択し、治験にも積極的に登録していました。

一方、上海交通大学の医師たちは、日本の医療を高く評価しており、日本への留学経験がある先生も数人いらっしゃいました。日本では約7割がstage I やIIで発見されることに比べて、中国では約7割がstage IIIやIVで発見されるのだと説明してくれ、日本の早期発見・早期治療の進歩を羨ましがっていました。日本では治療を行える施設が豊富にあることも素晴らしい点であることも教えていただきました。上海では、非常に多くの患者さんが仁済医院に集中するため、数日間しか入院させることができないそうです。改めて日本と中国の違いを実感しました。

今回の海外臨床実習を通して、これまで何も疑問を持つことなく受け入れてきた日本の医療の良さに気づくことができた点が一番の大きな学びでした。日本を外から見たい、という私の目標は達成したといえます。国際的な人材が豊富で、留学生に理解のある仁済医院の腫瘍内科に配属していただくことができ、幸運だったと思っています。医学の学習以外の観点でも成長できたと感じています。スタッフ同士の会話は推察するしかない状態だったので、状況を察する能力が予想以上に試されたような気がいたします。街中でも、言葉の通じない会話に苦戦したり、

見慣れない食べ物に出会ったりと、思わぬ度胸もつきました。中国の方々はおせっかいなぐらい親切で、街中で困っていると、言語が通じないなりに何とかしようと手助けしてくださり、何度も救われました。人の温かさを感じる事が出来たことも良い思い出です。総じて、行ってよかった、と心から思っております。

(2) 今後の展望

上海交通大学では研究活動が精力的に行われ、治験へも活発に参加していました。腫瘍内科の立ち位置も日本とは異なりました。今回見学したことを自身の参考としながら他者にも広めつつ、将来は腫瘍性疾患の診療ならびに研究に関わっていければと思います。直近の目標としては、日本の繊細な医療を身につけることができるよう実習やその後の研修に励もうと思います。

同時に、英語のスキルを高めたいと思うようになりました。派遣先の医師は英語が堪能な方が多く、大変刺激を受けました。今後は医学用語だけでなく、英語を文として綺麗に話し切れるように英会話にも力を入れていきたいと思います。

隣国の医師と交流を持てたことは私にとって一生ものの財産となりました。今回の出会いを大切に、今後も連絡を取り続けたいと思っております。

(3) 後輩へのメッセージ

海外の医療現場を実際に見ることでとても多くのことを学べ、視野が広がると思います。海外で働く予定のない人にとっても、日本の医療を見つめ直す良い機会になるはずです。

私もそうであったように、言語の壁で躊躇する人が多いのではないかと思います。私自身、典型的な日本人でスピーキングは苦手ですが、医学知識をしっかり持っていれば、ないがしろにされずにしっかり教えていただけるのだと実感しました。

もちろん日本での活動も忙しいと思いますし、後輩の皆さんには、まずは自分の活動を大事にして欲しいと思っています。その点、上海交通大学への留学期間は2週間と他機関より短く、春休みの期間を利用できたので、私としてはちょうど良かったと感じました。ぜひこの貴重な機会を利用してみてください。上海交通大学への留学に興味がある方がいらっしゃいましたら、ご連絡くださればお力になりたいと思います。

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 S. M. 学年 (留学当時) 5 年
実習期間 2024 年 3 月 18 日 (月) ~ 2024 年 3 月 29 日 (金)
留学先機関名 上海交通大学

1 プログラム内容について

- (1) 参加した留学プログラム
海外クリニカル・クラークシップ

2 現地までの移動について

		空港名	時間		空港名	時間
往路	日本発	成田	13:35	現地着	浦東	15:45
	経由地着			経由地発		
復路	現地発	浦東	17:00	日本着	成田	20:45
	経由地着			経由地発		
到着空港から実習 (宿泊) 地までの移動手段・時間・金額	移動手段 (現地在住の知人が車で迎えに来てくださいました。) 所要時間 : (40) 分 金額目安 : (0) 円					

3 宿泊先について

滞在期間	2024 年 3 月 16 日 ~ 3 月 30 日		
宿泊タイプ	寮	人部屋 共有設備 : ()	
	ホテル・アパート	2 人部屋	
	ホームステイ	人家族 自分以外の留学生 () 人	
	Airbnb・シェアハウス	人で共 同	ホストの同居 ; あり・なし 共有設備 : ()
実習場所までの距離	(徒歩) で (10) 分		
宿泊費用	54000 円 /1 週間		
住所	ホリデイ・イン上海浦東南浦 IHG ホテル 55 Huan Long Road, Pudong New Area, Shanghai, 200127		
実習場所までの距離	(徒歩) で (10) 分		
宿泊費用	50000 円 /1 週間		
住所	フォーポイントバイシェラトン・上海浦東 No 2111 Pudong Nan Road, Shanghai, 200127		

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1 週間

項 目	金 額	内 訳
食 費	15000 円	
学用品購入費	0 円	
交 通 費	1000 円	地下鉄・バス代
そ の 他	2000 円	eSIM 代
合 計	18000 円	

(2) 派遣先周辺地域の治安等

街灯は日本よりは少なめで少し暗いですが、治安は問題ありません。日付を超えても 1 人で歩いて帰れます。地下鉄やバスも問題なく乗れます。

歩きタバコをしている人が多く、特に病院の周りでは多かったです。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）

・ホテルにチェックインする際や美術館などに入館する際にパスポートが求められるので、持ち歩きやすいようにポーチなどがあると便利です。

・ランドリーありと記載していても、洗濯が無料のホテルと有料のホテルがあったため、できるだけ確認してから予約した方が良いです。

・中国のネットワークでは LINE、Google、Youtube 等のアプリが使用できないため、現地 SIM ではなく、日本で e-SIM を購入していくことをお勧めします。中国のネットワークで前述のアプリ等に使用したい際には、VPN 接続が必要です。

・中国では LINE が使えず、連絡は全て Wechat というアプリで行われるので、事前にアカウントを作って、慣れておくと良いと思います。

・中国では運賃や食事代も含め基本的に全ての決済がデジタルで行われていて、現金を使う機会はほとんどありません。クレジットカードで払おうとして困られることもありました。Alipay などのアプリを使えるようにしておいた方がよいと思います。

・ホテルの Wi-Fi に繋ぐ時などに中国の電話番号を求められるが、なくて困ったときはフロントに言えば解決してくれます。

5 実習について

実習診療科と主な内容（ 小児神経内科の observation ）	
実習内容	① 朝 8 時から病棟回診（3 時間ほど）
	② 脳波測定や腰椎穿刺などの検査見学
	③ 入院時診察見学

(1)プログラム初日の行動

朝 8 時に白衣と筆記用具を持って病院内の指定された場所に向かいました。名札を手渡されて神経内科の病棟に案内され、先生に紹介していただきました。回診中だったので、そのまま回診に参加しました。回診後に、現地の学生と共に入院患者についての解説を受けました。お昼は控え室で会った先生と食堂で食べました。その後病棟に戻って新入院の患者の入院時診察を見学し、15 時頃解散となりました。

(2)実習詳細

まずは朝 8 時からの回診に参加します。服装は、私服に白衣を羽織ります。回診は、病室の前でその病室の患者について担当医が病歴、現在の状態、検査結果などを説明し、今日やることや今後の方針を上級医が決めてから病室に入り、患者さんと共有する形です。月曜日と木曜日が教授回診でした。2～3 時間かかりました。回診後は、入院時診察や腰椎穿刺、脳波測定などがあれば見学したり、補助を行ったりしました。現地の学生が 1 人回っていたので、行動を共にできました。患者のところには自由に行っていいよと言われていたので、自分で気になった症例があれば身体所見や神経所見を取りました。お昼は、先生が用意してくださる日、食堂で食べる日、外出して食べる日がありました。

(3)一日の主なスケジュール(平日)

時間	8:00	11:00	12:00	13:00	15:00
行動	登院 回診	腰椎穿刺見学	お昼休憩	入院時診察見学	解散

実習診療科と主な内容（ 新生児科の observation ）	
実習内容	① 朝 9 時から病棟回診（2 時間ほど）
	② 心電図、血糖値、ビリルビン値の測定
	③ 新生児診察
	④ MRI 検査の補助
	⑤ 週一で朝 8 時から抄読会・勉強会（1 時間ほど）

(1)プログラム初日の行動

7:45 に病院内の指定された場所に集合し、そのまま抄読会に参加しました。担当の先生は日本で大学院に通っていた先生で、日本語で少し話してくださいました。その後病棟回診に参加しました。病棟回診後は学生に話しかけて、心電図、血糖値、ビリルビン値の測定方法を教えてくださいました。MRI 検査の補助も一緒にやらせていただきました。15 時ごろに解散しました。

(2)実習詳細

まず、朝9時からの回診に参加します。新生児科ではオペ着のようなものがあり、到着したら指定のスクラブに着替えます。病棟から出る時にはそれ用の白衣が置いてあり、自分の白衣は必要ありませんでした。回診では、血腫や肺雑音など、特徴的な所見があった際には触診、聴診させていただきました。30人以上の新生児が入院していて、3時間ほどかかります。回診が終わったらお昼を食べます。心電図、血糖値、ビリルビン値の測定は学生だけで行うので、午後は学生と共にそれらを測定します。MRI 検査をやる患者がいれば、学生だけで付き添うことが可能です。身体所見などは自由にとっていいと言われたので、空いた時間には自分で新生児診察をたくさんやってみました。15時~16時ごろに解散となります。

(3)一日の主なスケジュール(平日)

時間	8:30	9:00	12:00	13:00	15:30	
行動	登院 カルテ閲覧	回診	お昼休憩	心電図 血糖値 ビリルビン 値測定 MRI 補助	解散	

(4) 休日の過ごし方

上海ディズニーランドに行ったり、少し足を伸ばして蘇州にある世界遺産に行ったりしました。定時が16時と早く、市の中心地も近いので、実習後にも美術館に行ったり、夜景を見に行ったりできました。

(5)留意事項等（予習しておくことよいこと、困ったこと、持参するとよいもの等）

患者を自由に診察させてもらう機会が多いので、身体診察のやり方を予習しておくといいかもしれません。爪切りと聴診器を持っていくべきでした。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

神経内科では、てんかん発作や髄膜炎など急性の症例が多く、実際の髄液検査の結果から細菌性なのかウイルス性なのか鑑別を考える経験ができました。中国の病院、特に小児科では、ご家族が24時間付き添っておられたのが印象的でした。発作の様子も含めて日々の様子をご家族が記録していて、先生への質問も多く、ご家族と相談して治療方針を決める Shared decision making が自然と行われていることを感じました。

新生児科では、まず入院数・病床数がとても多いことに驚きました。新生児病棟とNICU病棟で分かれていて、それぞれ40床ずつあり、合わせて60人以上は常に入院しているという規模の大きい病棟でした。極・超低出生体重児や呼吸管理が必要な赤ちゃん

は NICU、状態が安定している低出生体重児や病的黄疸のある児、呼吸管理が必要ない赤ちゃんは新生児病棟というように分かれていました。医師もそれぞれの病棟で異なり、新生児のエコー検査を専門とする医師もいらっやって、規模の大きさと症例数の多さが素晴らしいと思いました。また、実習している学生が毎日の心電図測定、血糖値測定、ビリルビン値測定を担っていたことも印象的でした。本当に学生のみで測定を行っていて、私も先生ではなく学生からやり方を教わったので、とても実践的な実習だと感じ、刺激を受けました。

(2) 今後の展望

今回、中国でも最大規模のこども病院である、Shanghai Children's Medical Center で実習をすることができました。専門科の中でも神経内科と新生児科を選択した理由は、大学附属病院の新生児科と国立成育医療研究センターの神経内科で実習したことがあったので、同じ診療科で実習を行った方が、国による医療の違いが分かりやすいのではないかと思ったからです。実際には、現地の先生方が「中国の医療ではこういう問題があるのだけど、日本ではどうなの？」という質問をたくさん投げかけてくださり、具体的には、中国では大病院に人が集まってしまい医師にとっても患者にとっても負担になっているが日本ではどうなのか、研究と臨床はどのように両立しているのか、どのように医師を養成しているのか、専門医と何なのか、など、制度に関する質問が多く、上手く答えられない、つまり自分の将来に関わることなのによく知らないことがとても多いことに気付かせてもらいました。自分がどのような制度によって支えられて医師になり、働くことができるのか、何を目的とした制度なのかをこれから勉強していきたいと感じました。また、シンプルに小児の症例数を多数経験し、日本では見ることのできなかつた症例を経験することもできたので、より小児科への興味が深まりました。

(3) 後輩へのメッセージ

中国人の患者さんに対応することは誰でもいづれあると思うので、中国の医療・文化に触れてみるいい機会だと思います。もしかしたら中国に対してマイナスのイメージが少しあるかもしれませんが、偏見や差別などはなく、おしゃべりで明るい方が多かったです。中国ではいろいろ厳密ではない分、自由に病棟実習や診察ができたのがすごくいい点だったと思います。物価も安いし、ご飯も美味しいし、ディズニーには世界で唯一のズートピアエリアがあります！